

平成13年度

研究紀要

第15号

川崎市総合教育センター

は じ め に

文部省(現・文部科学省)によって告示された幼稚園教育要領並びに学習指導要領が、幼稚園においては平成12年度から、小・中・盲・聾・養護学校においては平成14年度から全面実施されました。また、高等学校においては、平成15年度から学年進行で実施されることになっております。今日、価値観の多様化、国際化、情報化、少子高齢化などが急速に進む中で、教育における様々な課題に対し、完全学校週5日制の下、「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、子どもたち一人一人に「生きる力」を培っていくことがこれからの教育の基本的なねらいとなっております。

このことを受けて、川崎市総合教育センターは、研究の総括主題を「川崎の特色が生きる教育の創造」として、7研究分野を設定しました。そして、各研究会議では、総括主題・研究の重点を踏まえて研究主題を設定するとともに、研究を進めるにあたっては次の3点を基本的な視点としました。一つ目は、社会の変化や時代の進展などに伴って要請される先導的課題に関する研究、二つ目は、学校教育、幼児教育、社会教育等広く教育一般にかかわる基礎的課題に関する研究、三つ目は、学習指導、児童生徒指導、社会教育などにおける実践的課題に関する研究です。

ここに、平成13年度に終結した30の研究会議の研究内容を、研究紀要第15号としてまとめることができました。この研究紀要が、これからの皆様の研究の充実・改善に役立つことができれば幸いです。忌憚のないご指導並びにご批評を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、それぞれの研究に対しまして、当総合教育センター専門員はじめ多くの方々からご指導やご助言をいただきました。改めて深く感謝いたしますとともに、それぞれの研究にお力添えをいただきました関係の方々に厚くお礼申し上げます。

2002年5月

川崎市総合教育センター
所 長 三原 良明

目 次

研究への取組	-----	1
研究の構想図	-----	3
特色ある学校づくり	----- 学校経営研究会議 -----	5
- 地域の教育力を探る -		
教科と「総合的な学習の時間」の関連を図った教育課程の編成	----- 教育課程研究会議 -----	21
- 資質・能力に着目した関連を目指して -		
多文化共生の社会をめざした国際理解教育	----- 国際理解教育研究会議 -----	37
- 多様な文化を学ぶ学習活動の構成 -		
3年保育の教育課程編成にむけての基礎研究	----- 幼児教育研究会議 -----	53
- 3歳児が環境とかかわる姿に視点をあてて -		
体験的な活動を通して、生きる力を培うキャリア教育の研究	----- 高校教育研究会議 -----	69
- 「総合的な学習の時間」を活用して -		
子どもの主体的な「読み」を支える自己評価についての研究	----- 国語科研究会議 -----	85
自分自身への気づきを深めるための生活科の授業	----- 生活科研究会議 -----	101
- 1・2年生のかかわりを通じた教師の支援 -		
すすんで聴く子どもの育成をめざして	----- 音楽科研究会議 -----	117
- 「音楽的な感受」をはぐくむ創造的な学習活動 -		
コミュニケーション能力の育成に関する指導法の研究	----- 英語科研究会議 -----	133
- スキット活動を通して -		
児童生徒が道徳的価値の自覚を深めるための道徳の時間	----- 道徳研究会議 -----	149
- 体験活動と道徳の時間の関連を図る -		
郷土資料の作成と活用に関する研究	----- 郷土資料編集研究会議 -----	165
- 副読本「かわさき」の編集を通して -		
児童生徒の表現、発表学習に有効なメディアの活用について	----- 情報教育研究会議 -----	181
- デジタル素材やネットワークの活用方法を中心に -		
学校教育相談の活性化をめざして	----- 学校教育相談研究会議 -----	197
- 学級活動における教育相談のかかわりを通して -		
通常の学級における	----- 通常学級の特別支援教育研究会議 -----	213
特別な教育ニーズのある児童生徒に対する支援の在り方		
- ADHDの児童に対する個別支援計画の活用を通して -		
高等学校物理における生徒の学習意欲を高める指導方法の研究	----- 専門研修員による1年研究会議 -----	229
- 生徒が物理を好きになる授業の在り方を探る -		

学校における教育相談の在り方 - 保護者とのかかわりを通して -	-----	カウンセラー研修 研究会議	-- 235
カウンセリングマインドを生かした学校教育相談	-----	カウンセラー研修 研究会議	-- 241
不登校児に対するグループアプローチに関する実践研究 - 小集団構成員相互の交流と関連機関との連携を通し、個々の変容を目指す活動 -	-----	グループアプローチ研究会議	-- 247
子どもの人権意識を高める指導の在り方 - 「川崎市子どもの権利に関する条例」を生かした指導方法の研究 -	-----	児童生徒指導研究会議	----- 253
自ら気付き実践する力を育てる健康教育 - 養護教諭が取り組む保健学習 -	-----	健康教育研究会議	----- 259
興味・関心を高める学習の在り方 - 身近な地域を取り入れた授業を通して -	-----	社会科研究会議	----- 265
算数・数学のよさが分かり、 意欲的に進める学習活動に関する研究 - 学習活動における「よさ」のとらえを中心に -	-----	算数・数学科研究会議	----- 271
理科学習における学び合いの在り方を探る - 学び合いに関する授業実践を通して -	-----	理科研究会議	----- 277
図画工作・美術科と 「総合的な学習の時間」とのかかわりを探る - 図画工作・美術科で身に付けた基礎・基本を生かした「総合的な学習の時間」の在り方 -	-----	図画工作・美術科研究会議	--- 283
運動の楽しさの変容を追った体育学習 - 跳び箱遊び・跳び箱運動を通して -	-----	体育・保健体育科研究会議	---- 289
学びの共有化を目指した家庭、技術・家庭科学習 - 食の学習における小学校・中学校の連携を探る -	-----	家庭、技術・家庭科研究会議	-- 295
小学校・中学校の連携を考えた特別活動 - 児童・生徒の発達段階を踏まえた話し合い活動を探る -	-----	特別活動研究会議	----- 301
ネイティブ・スピーカーとの 体験的な外国語活動を通しての国際理解教育	-----	小学校における外国語活動研究会議	-- 307
デジタル動画コンテンツの開発研究	-----	映像制作研究会議	----- 311
市民館の今日的課題を探る - 市民館分館の事業体系構造化の視点 -	-----	社会教育研究会議	----- 317
平成13年度の教育研究所連盟における研究発表者一覧表	-----		----- 333

総合教育センターとしての研究の取組

平成 8 年 6 月、中央教育審議会（以下、中教審）は、これからの学校教育の在り方として、「ゆとり」の中で「生きる力」を育成することを方針として明らかにした。この方針を受けて改訂された幼稚園教育要領は平成 12 年度から、小・中・盲・聾・養護学校における学習指導要領は平成 14 年度から全面実施された。また高等学校は平成 15 年度から学年進行で実施される。

川崎市総合教育センターとしては、発足以来「自己教育力」の育成を主眼に置いて、研究の深化・発展を図ってきており、平成 9 年度より 12 年度までの 4 年間、研究の総括主題を「生きる力を育むための学校教育・社会教育の推進」として、今日の教育に求められている諸課題の解決や改善の研究を続けてきた。社会が変化しようとも、21 世紀を生きる子どもたちに必要となるのは、自分で課題を見つけ、主体的に問題を解決していく資質や能力であり、豊かな人間性であると考えられる。

さて、平成 10 年 10 月、中教審は「今後の地方教育行政の在り方について」と題した答申を出し、教育の地方分権化と学校裁量権拡大の方向を示した。当センターにおいても、川崎に生きる子どもの実態を把握し、今後彼らに求められるであろう方向性を明らかにするとともに、川崎という都市を教育活動という点から見直し、そこに内在する教育的資源やその活用方法等について研究を進めていくことが求められている。また、今後は、従前以上に市民のニーズを把握するとともに、市内の教育機能を十分に活用し「川崎らしさ」の表れた生涯学習のシステムを構築させていく必要があると思われる。

以上のようなことから、「生きる力」の育成を根底に置きつつ、川崎らしい教育の創造を求めて、研究の総括主題を「川崎の特色が生きる教育の創造」と定めた。

研究の性格

上記の総括主題のもとに調査研究を進めるにあたり、次の 3 点を基本的な視点としてふまえている。

- ・先導的研究の推進 ----- 社会の変化や時代の進展などに伴って要請される先導的課題に関する研究を推進する。
- ・基礎的研究の推進 ----- 学校教育、幼児教育、社会教育等広く教育一般にかかわる基礎的課題に関する研究を推進する。
- ・実践的研究の推進 ----- 学習指導、児童生徒指導、社会教育など、実践的課題に関する研究を推進する。

以上、3 つの視点をもとに、本市の幼児教育・学校教育・社会教育における今日的課題について、その理論の構造化を図りながら研究を進めている。

本研究紀要に収録した研究

平成 13 年度は、研究を「指導主事研究」「教育課題研究」「教科教育等研究」「生涯学習研究」「情報教育研究」「教育相談研究」「障害児教育研究」に分け、研究の特質を明確にした。

「指導主事研究」～総合教育センターとして各研究室の専門性を生かした（研修）指導主事による研

究

「教育課題研究」～今日の教育に求められている諸課題の解決や改善のために行う、教科・領域等を越えた研究

「教科教育等研究」～学校教育における教科等の諸課題の解決や改善に資する研究

「生涯学習研究」～市民や子どもの学習支援や、学校教育と社会教育の連携・融合を進めるための研究

「情報教育研究」～川崎市教育情報ネットワークの有効性や活用に関する研究や、様々な視聴覚教材の開発活用等に関する研究

「教育相談研究」～学校に生かせる教育相談の実現をめざすとともに、教育相談センターと学校の連携を深めることをめざした研究

「障害児教育研究」～特別な教育ニーズのある子どもへの教育支援と学校支援を目指した研究

研究会議の組織と運営

各研究会議は、以下に示す4つの形態から構成され、研究を進めた。

各研究室の（研修）指導主事と研究（研修）主幹との研究会議

各学校（園）より派遣された長期研修員と研修員に当センター（研修）指導主事を加えた研究会議

各学校、市内公立施設より派遣された研修員に当センター（研修）指導主事を加えた研究会議

市内公立施設より派遣された研修員に当センター社会教育主事を加えた研究会議

研究の推進にあたっては、定期的に研究会議を開催するとともに、各学校（園）、各校種等の研究会や市内各関係機関と密接な連携を図ることを心がけてきた。各研究会議は、課題に合わせた検証授業等を実施し、それを積み重ねることで、より確実に裏付けのある研究をした。

研究の成果

研究の成果については、所内での中間報告、対外的な場での発表を行うことを通し、その都度研究の方向・方法などの検討を積み重ねてきた。

そして、研究報告会（平成13年2月27日）を開催して、終結を目前にした調査・研究の報告をするとともに、市内外の多くの参会者からのご助言・ご意見をいただいた。その後、まとめの研究会議を経て、最終報告としての研究紀要をここに完成させた。

完成した研究紀要は、次年度の研究の参考にすることはいうまでもないが、市内のすべての学校、公共機関及び県内の主な研究機関に配布し、またインターネットにより全国に向けて研究の内容を発信し、広く教育現場の日常の研究活動に生かせるよう配慮した。

もう一つの研究の成果として完成させたコンピュータソフトや視聴覚教材等についても公開して、その活用・普及に努めている。

平成13年度 川崎市総合教育センター研究基本構想図

研究分野

研究体制

指導主事
共同研究

- (1) 人権尊重教育〔川崎市子どもの権利に関する条例の指導ビデオと指導資料の作成〕
- (2) 教育課程研究会議〔教科と「総合的な学習の時間」の関連を図った教育課程の編成〕

主題
研究の総括

川崎の特色が生きる教育の創造

『自ら学ぶ』『共に学ぶ』『学び続ける』

教育課題研究

さまざまな教育課題に関する先を見通した研究

- (1) 学校経営〔特色ある学校づくり〕
- (2) 国際理解教育〔多文化共生の社会をめざした国際理解教育〕
- (3) 児童生徒指導〔子どもの人権意識を高める指導の在り方〕
- (4) 健康教育〔自ら気づき実践する力を育てる健康教育〕
- (5) 幼児教育〔3年保育の教育課程編成にむけての基礎研究〕
- (6) 高校教育〔体験的な活動を通して、生きる力を培うキャリア教育の研究〕

教科教育研究

2002年度の教育課程全面実施に向け教育課程の編成に資する研究

- (1) 国語科〔子どもの主体的な「読み」を支える自己評価についての研究〕
- (2) 社会科〔興味・関心を高める学習の在り方〕
- (3) 算数・数学科〔算数・数学のよさが分かり、意欲的に進める学習活動に関する研究〕
- (4) 理科〔理科学習における学び合いの在り方を探る〕
- (5) 生活科〔自分自身への気づきを深めるための生活科の授業〕
- (6) 音楽科〔すすんで聴く子どもの育成をめざして〕
- (7) 図画工作・美術科〔図画工作・美術科と総合的な学習の時間とのかかわりを探る〕
- (8) 体育・保健体育科〔運動の楽しさの変容を追究した体育学習〕
- (9) 家庭、技術・家庭科〔学びの共有化を目指した家庭、技術・家庭科学習〕
- (10) 英語科〔コミュニケーション能力の育成に関する指導法の研究〕
- (11) 道徳〔児童生徒が道徳的価値の自覚を深めるための道徳の時間〕
- (12) 特別活動〔小学校・中学校の連携を考えた特別活動〕
- (13) 小学校における外国語活動〔ネイティブ・スピーカーとの体験的外国語活動を通しての国際理解教育〕
- (14) 郷土資料編集〔郷土資料の作成と活用に関する研究〕
- (15) 専門研修員による1年研究〔高等学校物理における生徒の学習意欲を高める指導方法の研究〕

生涯学習研究

今日的課題をふまえて、市民や子どもの学習支援をめざす研究

- (1) 社会教育〔公共施設等の活用に関する作成資料の検証と研究〕
- (2) 社会教育〔市民館の今日的課題を探る〕

情報教育研究

川崎市教育情報ネットワーク（ケインズネット）を活用した教育の推進に関する研究

- (1) 情報教育〔児童生徒の表現、発表学習に有効なメディアの活用について〕
- (2) 映像制作〔デジタル動画コンテンツの開発研究〕

教育相談

学校に生かせる教育相談の充実をめざし、教育相談センターと学校の連携を促進するための実践的な研究

- (1) 学校教育相談〔学校教育相談の活性化をめざして〕
- (2) カウンセラー研修〔学校における教育相談の在り方〕
- (3) カウンセラー研修〔カウンセリングマインドを生かした学校教育相談〕
- (4) グループアプローチ〔不登校児に対するグループアプローチに関する実践研究〕
- (5) 不登校児童生徒の体験活動実践研究〔不登校児童生徒の交流・相互理解を促進する体験活動の実践〕

障害児教育

特別な教育ニーズのある子どもへの教育支援をめざす研究

- (1) 通常学級の特別支援教育〔通常の学級における特別な教育ニーズのある児童生徒に対する支援の在り方〕

長期研修員と研修員
指導主事と研修員
研修員
指導主事
社会教育主事と研修員
黒塗りは次年度終結研究

外部研究機関との研究

教育課題研究室	・指定都市共同研究	・中高一貫教育
教科教育研究室	・指導と評価の研究	・全教連共同研究
情報教育研究室	・コンピュータ教育利用共同研究	
障害児教育研究室	・学習障害児（LD）に対する指導方法等に関する実践研究	